

**[成果情報名]赤紫色夏秋小ギク有望系統「長崎 SRC2」の開花特性**

**[要約]**赤紫色夏秋小ギク有望系統「長崎 SRC2」は、電照により8月上旬に開花抑制でき、「長崎 SWC1」と同時期出荷が可能である。草姿が良く無効側枝の発生が少ないため、出荷調整がしやすく省力的である。

**[キーワード]**夏秋小ギク、赤紫色、電照栽培、長崎 SWC1

**[担当]**長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・花き・生物工学研究室

**[連絡先]**(代表) 0957-26-3330

**[区分]**花き

**[分類]**普及

**[作成年度]**2019年度

**[背景・ねらい]**

本県では、露地で栽培でき、低コストに導入が可能な品目として、小ギクの作付け推進を図っているところである。しかし、最需要期である8月盆出荷作型では、近年の異常高温により早期発蕾や開花遅延が発生し、計画的に出荷できないことが問題となっている。そのため、安定生産が可能な夏秋小ギク品種の育成が求められており、これまでに重イオンビーム照射により、電照による開花調節が可能な白色品種「長崎 SWC1」を育成した(平成30年度成果情報)。

小ギクは、需要期に赤・白・黄の3色揃った出荷が求められる。そこで今回、「長崎 SWC1」と同時期に出荷できる赤系品種を育成する。

**[成果の内容・特徴]**

「長崎 SRC2」は、本センターで白色夏秋小ギク品種「はじめ」の自然交配により得られた実生から2014年度に選抜された系統であり、以下の特性を有する。

1. 花色はやや薄い赤紫(RHSカラーチャートRED-PURPLE 70-A)である(写真1)。
2. 4月中旬に定植し、定植～6月中旬まで電照による5時間の暗期中断処理を行うと、開花は8月上旬に抑制できる。消灯日からの到花日数は、55日以内であり、「長崎 SWC1」と同等である(図1、2)。
3. 8月開花作型における切り花品質は、県切り花標準出荷規格の最上位規格である切り花長80cmは十分確保でき、80cm調整重は、おおむね50gを確保できる(表1、2)。
4. フラワーフォーメーションは1であり、葉が立葉で小葉であるため、出荷調整しやすい形状である(表1、2、写真1)。
5. 切り花の先端から下方30cmより下に発生した花蕾のついた側枝(無効側枝)の発生が少なく、1本未満である(表1、2)。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 本年度の「長崎 SRC2」の季咲きは7月上旬であった。
2. 無効側枝は、出荷調整時に除去する必要があるため、無効側枝が少ないことは作業の省力化につながる。
3. 今後品種登録出願を行う。

**【各試験圃場の消灯日】**

試験年度	2017	2018	2019	2019		
栽培圃場		農技セ		県北A	県北B	県央A
消灯日	6月13日	6月11日	6月13日	6月15日	6月9日	6月10日

[具体的データ]

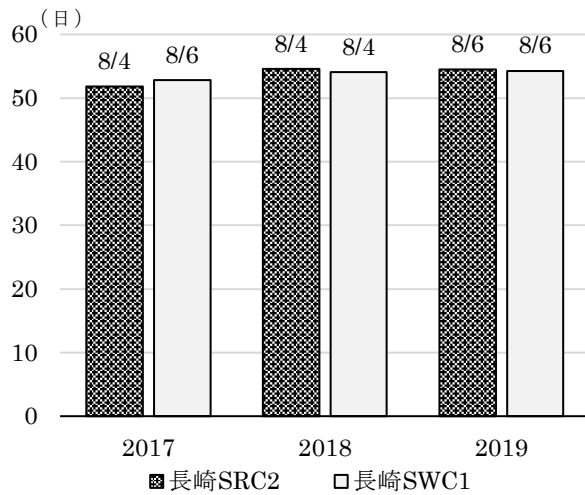


図1 「長崎 SRC2」の到花日数<sup>z</sup>および平均収穫日（農技セ）

<sup>z</sup> 消灯日から平均収穫日までの日数

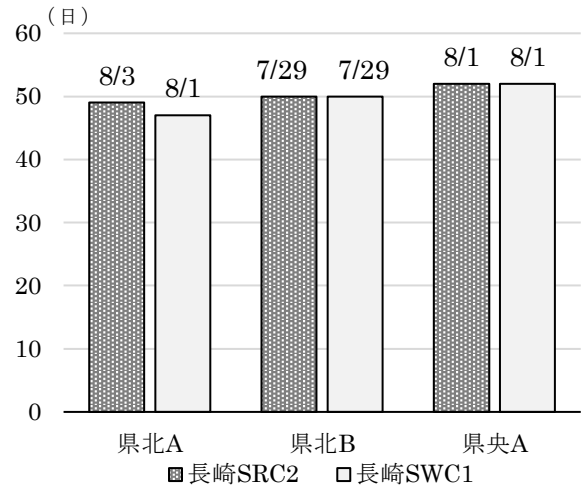


図2 「長崎 SRC2」の到花日数<sup>z</sup>および平均収穫日（現地・2019年度）

<sup>z</sup> 消灯日から50%収穫日までの日数

表1 「長崎 SRC2」の切り花品質（農技セ）

試験年度	品種・系統名	切り花長 (cm)	無効 <sup>z</sup> 枝数 (本)	80cm <sup>y</sup> 調整重 (g)	FF <sup>x</sup>
2017	長崎SRC2	113.1	0.2	50.0	1
	長崎SWC1	112.0	0.1	52.3	1
2018	長崎SRC2	123.3	0.8	57.4	1
	長崎SWC1	119.1	0.8	54.8	1
2019	長崎SRC2	98.1	0.5	56.0	1
	長崎SWC1	103.9	1.9	58.0	1

<sup>z</sup> 切り花の先端から下方30cmより下に発生した花蕾のついた側枝  
<sup>y</sup> 切り花を長さ80cmに調整した後、有効側枝以外と下葉20cmを除去して測定

<sup>x</sup> FF：フラワーフォーメーション（図3参照）

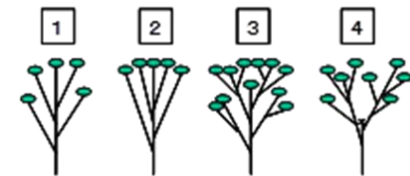


図3 小ギクのフラワーフォーメーション

表2 「長崎 SRC2」の切り花品質（現地）

圃場場所	品種・系統名	切り花長 (cm)	無効 <sup>z</sup> 枝数 (本)	80cm <sup>y</sup> 調整重 (g)	FF <sup>x</sup>
県北A	長崎SRC2	113.2	0.3	51.9	1
	長崎SWC1	114.7	0.1	49.5	1
県央A	長崎SRC2	90.0	0.0	54.8	1
	長崎SWC1	87.9	0.0	46.6	1

<sup>z</sup> 切り花の先端から下方30cmより下に発生した花蕾のついた側枝  
<sup>y</sup> 切り花を長さ80cmに調整した後、有効側枝以外と下葉20cmを除去して測定

<sup>x</sup> FF：フラワーフォーメーション（図3参照）



写真1 「長崎 SRC2」の草姿

[その他]

研究課題名：戦略的イノベーション創造プログラム（次世代農林水産業創造プログラム）  
 ゲノム育種技術等を用いた農水産物の画期的育種改良

予算区分：国庫 研究期間：2014～2018年度 研究担当者：久村麻子、竹邊丞市